

# カンボジア小学校教員への衛生教育来日研修前後の 健康教育観の検討

JICA 草の根技術協力事業衛生教育改善のための来日研修効果について  
 ○清水裕子・山本麻理奈・大田詩織・山口舞・上原星奈 (香川大学医学部),  
 楠川富子・Thearith Bun・Thay Sokheng (NGO UDON HOUSE)・徳田雅明 (香川大学)  
 キーワード: 衛生教育, 保健室, カンボジア

## 目 的

カンボジア王国は、クメール共和国であった 1970-75 年に米軍により約 200 万人が爆撃で殺戮され、また 76-79 年にはクメールルージュとポルポトにより約 100 万人が殺戮されたとされる。1991 年のカンボジア和平パリ協定迄に 20 年間の内戦があり、食糧不足と教育が特に荒廃した。

本研究は、JICA 草の根技術協力事業において、カンボジア国カンダール州カンダルスタン郡の小学校教員およびその行政担当者向けに、日本型学校保健室を中心とした衛生教育方法の技術を移転し、特に来日研修が与えた健康教育観の変化について検討することを目的とする。

## 方 法

研究対象者は、カンボジア国教育青年スポーツ省・カンダール州学校保健局行政担当者 5 名、カンダルスタン郡担当者 2 名、カンダルスタン郡小学校校長 9 名、教員 8 名、男性 15 名女性 9 名合計 24 名であった。

データの収集は、日本語の質問文を、日本に 2 年間語学留学を行ったカンボジア人がクメール語に翻訳し、クメール語に卓越した調査者が聞き取りを含む方法で自記式質問紙調査を実施した。基本属性は、性別、年齢、職位 (行政、校長副校長、教員)、来日時期であり、健康教育観の質問項目は、他国から学ぶことの必要性和自立性 6 項目、衛生観念 16 項目、健康概念の変化 9 項目合計 34 項目であった。質問項目の妥当性は、来日研修プログラムを作成した学校保健のエキスパート 8 名によりコンセンサスが得られ、表面・内容妥当性を担保した。回答の評定段階は、1: そう思わない、2: あまりそう思わない、3: どちらでもない、4: まあまあそう思う、5: そう思うであった。分析は、データの正規性がいないためノンパラメトリック検定を用い、項目の前後比較は符号付き順位和検定、 $\chi^2$  検定を行った。調査は来日研修 10 月 12 日~17 日、10 月 25 日~31 日の前後、つまり来日研修前のベースラインが 2017 年 9 月 16 日、研修後は 2018 年 1 月 5 日に実施した。倫理的配慮として、分析データは、現地 NGO で調査され、分析者には後日匿名化データの提供を受けた。

## 結 果

来日研修前の回答者は 27 名、研修後は 25 名で、対応ある 21 名について分析対象とした。欠測値はなかった。性別は男性 13 名、女性 8 名、年齢は 29 歳から 60 歳までで、20 代 1 名、30 代 5 名、40 代 8 名、50 代 6 名、60 代 1 名であった。34 項目の内、前後で有意な項目は、表 1 の通りであった。手洗いや歯磨きの意味を教えているかは、前には全回答者

が意味を教えたとは回答したが、後には行政職 1 名が「そう思わない」2 名が「どちらでもない」との回答であった (2 項目共に  $p < 0.10$ )。児童はトイレを使用できず我慢しているかは、行政職 1 名を除き「まあまあそう思う」の回答が 7 から 19 名に増加した ( $p < 0.05$ )。

健康概念の変化の飲酒は健康によいと思うかは、前には殆どが思わないと回答したが、後には、良いと思わないの回答が減少した ( $p < 0.10$ )。健康には心の問題は関係あるかは、前には殆どが心の問題の影響ありと回答したが、後にはそう思わない、どちらでもないの回答が増加した。

研修の成果項目では、煙草は健康に良いと思うかは、前には殆どがそう思わないと回答したが、後にはまあまあそう思うが 13 名あった。飲酒は健康に良いと思うかの回答は同様の結果であった ( $p < 0.10$ )。健康は自分の努力次第と思うかは、まあまあそう思うの回答が 18 名から 21 名に増加した ( $p < 0.05$ )。

表 1 カンボジア教員来日研修前後調査

質問項目	来日研修前			来日研修後			前後対応比較 漸近有意確率 (両側)
	代表値	最小値	最大値	代表値	最小値	最大値	
質2②子どもたちに手を洗う意味は教えている。	4.00	4.0	4.0	3.62	1.0	4.0	.063 †
質2③子どもたちに歯を磨く意味を教えている。	4.00	4.0	4.0	3.62	1.0	4.0	.063 †
質2④子どもたちはトイレを使用できずに我慢している。	3.30	2.0	4.0	3.76	1.0	4.0	.280 *
質4④飲酒は健康に良いと思う。	1.29	1.0	3.0	1.62	1.0	3.0	.053 †
質4⑤健康には心の問題は関係ある。	3.91	3.0	4.0	3.38	1.0	4.0	.021 *
質5⑤煙草は健康に良いと思う。	1.33	1.0	4.0	3.48	3.0	4.0	.000 ***
質5⑥飲酒は健康に良いと思う。	1.19	1.0	2.0	3.48	1.0	4.0	.000 ***
質5⑦あなたは日常的に心が疲れている。	3.19	1.0	4.0	3.86	2.0	4.0	.005 **
質5⑧健康は自分の努力次第だと思う。	3.83	3.0	4.0	4.00	4.0	4.0	.083 †

†  $p < 0.1$ , \*  $p < 0.05$ , \*\*  $p < 0.01$ , \*\*\*  $p < 0.001$

## 考 察

手洗いや歯磨きの回答は、来日研修で手洗い (ブラックライトによる洗い残し検出) や歯磨き (染め出し錠による磨き残し検出) の体験型研修を受けた結果、これまでは根拠を示さなかったと感じたためではないかと考えられる。

回答者所属の小学校は、トイレや給食がないため小学校から大学まで半日のみのカリキュラムである。児童数は約 130-960 名、トイレは 50-300 名に 1 個程度である。そこで来日し、一層カンボジアでのトイレ不足を児童が感じているのではないかと実感したものと考える。飲酒や煙草はカンボジアでは健康に害するものとの印象をもっていたが、来日しその印象が低減し、健康に害しないものとの印象をえている。これは日本での夕食において飲酒し、陽気になり、満足感や幸福感を感じたためではないだろうか。健康概念を幸福感と弁別し、明確化されていない可能性が考えられる。

(SHIMIZU Hiroko, YAMAMOTO Marina, OOTA Shiori, YAMAGUCHI Mai, UEHARA Hoshina, KUSUGAWA Tomiko, THEARITH Bun, THAY Sokheng, TOKUDA Masaaki )